

# 令和7年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 和佐小学校
校長氏名	結城 将光
作成日	令和8年3月4日

## 1 教育目標

『心身ともに健康で 自ら学び 地域と共に生きる子どもを育てる』

## 2 本年度の取組についての評価

	地域と共にある学校	豊かな心と健やかな体の育成	確かな学力
指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の様子が伝わった (保護者85%以上)</li> <li>学校運営協議会による学校評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「早寝早起きができる」 (児童・保護者 80%以上)</li> <li>「相手の気持ちを考える心を育む取組を行っている」 (保護者80%以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習到達度調査で、国平均に並ぶ</li> <li>「毎日の授業はよくわかる」 (児童80%以上)</li> <li>「子どもの学力はついていると感じる」 (保護者80%以上)</li> </ul>
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域教育力の有効活用</li> <li>学校の情報提供</li> <li>学校運営協議会との連携・協働</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別の教科道徳、人権教育の充実</li> <li>体力の向上と共に健やかな体の育成</li> <li>生活指導の充実 (情報モラル指導等含む)</li> <li>仲間づくり(学級経営充実)の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の定着(学習タイム等を利用)</li> <li>学習における書くことを意識した授業の取組</li> <li>生活科、総合的な学習の時間を中心に、児童が主体的な学びの姿勢を育てる取組</li> </ul>
取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科と総合的な学習の時間で、地域教材を取り上げ学習した。地域教材では、たくさんの地域の方にお世話になった。また、ボランティアの方々に、見守り活動、図書館の整備や5・6年生の家庭科の裁縫の補助、そして護身術クラブの指導等で関わっていただいた。さらに、アルミ缶募金をして下さっている方のお陰で、児童に必要な消耗品を購入できています。</li> <li>学校運営協議会委員の方々に学習参観をしていただき、感想・評価等を戴きながら、相談・連携・協働を生かした教育活動を展開している。</li> <li>取組や様子、めざしたい子ども像等の考え方は「学校だより」や「ホームページ」等で広報してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別の教科道徳の時間や教育活動全体を通して、豊かな心を育むことに努めた。</li> <li>いじめなくそうデー「児童アンケート」を行い、未然防止、早期発見、早期解決を図った。</li> <li>「なかよし集会」では縦割り班で行うことができた。異学年での児童の活躍の場や交流の場を設定することができ、そこに子どもたちの笑顔や笑い声が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習タイムでは、基礎学力向上のために、学級の学習課題に応じた取組を行った。また、対象学年で一定期間、全国学調や県学調の過去問題に取り組んだ。</li> <li>生活科・総合的な学習の時間を研究教科として取り組むことで、他教科では発言があまりない児童も、自分が調べたことや気付いたことを意欲的に発表する姿も見ることができた。</li> </ul>
取組の結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の「学校はホームページや各種お便りなどを通して学校の様子を伝えている」は85%だった。目標値は達成できた。しかし、15%弱は「わからない」「思わない」等の否定的な意見なので、もっと伝わりやすい方法も考えなくてはいいかと考える。今後も、学校だよりやホームページ等で情報を発信し、児童の学校での活動の様子や学校運営方針を発信していき、広く学校運営への理解を図る。</li> <li>地域の声として、学校運営協議会の委員の皆様と今後も意見交流を通して、地域の中の学校として、実りのある運営協議会としていくことが大事である。</li> <li>今年度も、「和佐地区防災訓練」を開催し、児童たちの防災意識を、地域と共に高めることができた。30年以上の歴史ある訓練を子ども達が目の当たりに出来るのは大変意義深いものだったと感じる。今後は、学校外でも避難できる防災教育が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校アンケートでは、「早寝・早起きできた」は児童で62%、保護者で77%となり昨年よりポイントが上がった。気を緩めず、今後も低学年より基本的な生活習慣の指導を徹底する必要がある。</li> <li>児童アンケートでは、94%の児童が「わたしは学校が楽しい」と回答し、昨年より5P上がった。また、「学校で命の大切さや社会の決まりを教えてもらっている」の回答も95%で、4P上がっている。今後も一人一人の良さを伸ばす指導を心がけ、児童の自己肯定感を育んでいきたい。</li> <li>「学校は、相手の気持ちを考える心を育む教育を行っている」の保護者回答が78%で、昨年より4P上がった。道徳やその他の学級指導等で、教職員はこのような人権教育を行っている。しかし9%が「わからない」との回答であったため、教育活動をさらに公表する必要性を感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6年生の全国学力・学習状況調査は、全国平均を1~4P高い結果となった。読み取りや解答に必要な数値を見極める力、さらに、条件付きの作文に課題があることが分かった。</li> <li>学校アンケート、児童の「わたしは毎日の授業がわかる」は84%で昨年比7P上がった。保護者の「子どもの学力がついている」は80%でこれも4P上がっている。児童・保護者の肯定意見が上がったことには成果を感じる。より一層、授業改善を図っていきたい。</li> <li>生活科や総合的な学習の時間を通して、生き生きと活動する児童の姿を見ることができた。また、今年度も、幼小連携を積極的に行ってきた。様々な学年で、園児との交流を行い、さらに、教職員同士が各々の授業を研究参観したり、小学校の研究授業に幼稚園職員が参加するなど、子どもと教職員ともに交流を行った。本校児童の課題である自己肯定感の向上、ならびに教育の連携等で成果があった。しかし、まだまだ学力向上には至っておらず、今後、さらにこの取組を通して、学びに向かう姿に結び付け向上をめざしたいと考える。</li> </ul>
改善方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と共にある学校を目指し、地域の方々に協力を得ながら、学校運営協議会の充実にも努める。</li> <li>ホームページ等で、学校の情報や、子どもたちの活動の様子などを広く伝えていく。</li> <li>「学校だより」を利用し、本校の目指すビジョンを広報し、保護者・地域の理解をより一層求めていく。</li> <li>地域の教育力を掘り起こし、教育活動の充実と地域愛をもった児童の育成を図る「市民性を育てる教育(ESD)」の充実を図っていく。</li> <li>自治会単位で行われている「子ども育成事業」などを学校側からも広報し、地域・学校の連携を進めて、コミュニケーションの輪を広げたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の児童の観察やアンケート等による実態把握に努め、課題が見られた際は、教職員全体で話し合い、必要に応じて関係機関との連絡を図り対応する。</li> <li>各学期に実施する生活リズム調べる結果をまとめ、児童に指導するとともに、各家庭にも協力を仰ぐ。</li> <li>特別の教科道徳の時間だけでなく、教育活動全体を通して児童の道徳性を育んでいき、保護者にも啓蒙していく。</li> <li>日頃の学級経営の中で、人権感覚を育む取組を進めていき、教職員は、「隠れたカリキュラム」を意識し、人権教育に励む。取組内容等を学年・学級だより等で保護者に知らせ、協力と理解、啓蒙を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校は、「生活科・総合的な学習の時間」を研究教科に位置づけ、「見つける・調べる・表現する」の3観点を重視した探究活動を続けている。「問い」から「解決」に至る探究活動を、他教科での学びの姿に結び付けたいと考える。そうした学習過程により、自律学習の力を培うことを図っていきたい。</li> <li>学習タイムでは、学級の実態に合わせた取組を行い、個別最適で、習熟度に応じた学習をさせ理解力上げる。</li> <li>図書館ボランティアの方々の協力を得て図書館整備を進め、図書館を身近なものにし、本に触れる機会が増えるような取組を推進し、学校図書館を情報センター化することに努めていく。</li> </ul>

## 3 その他の課題

- GIGAスクール構想も定着化し、低学年から学習にタブレットを利用するようになった。そのことにより学習方法の幅が広がってきたという良さがある。だが、通信端末の使い方によっては、ネットトラブルや生活リズムの乱れの原因にもなる。ネットモラルの学習や、保健学習等で通信メディアの使い方の指導が今まで以上に必要となる。
- 南海トラフ地震の危険性が高まっている今、避難訓練においても、様々な問題や災害を想定した実践的な訓練を、地域と共に考え、行動していくことが大事になってくると考える。この学校運営協議会との連携を生かし、地震が発生した際の避難の仕方を考えていく必要がある。
- 学力向上が本校の課題であることは言うまでもないが、本校では遅刻児童がなくなる。親の養育力やどのような家庭環境であっても自律できる児童を育成し、学習保障を確立しなければならない。